

中国貨幣の歴史

30 金の貨幣



せいりゅうげんぼう
正隆元宝



たいていつうほう
大定通宝



たいわつうほう
泰和通宝



たいわじゅうほう
泰和重宝



ていゆうつうほう
貞祐通宝

(写真は実物 × 100%)

金の銭貨

金では、独自の銭貨も铸造・発行したが、流通銭貨の中心は領有した遼と北宋の地域で豊富に流通していた北宋銭や開元通宝等の中国歴代旧銭であった。銅銭の国外流出等により銭貨不足が進むと紙幣に依存するようになり、モンゴルが侵入が始まる金末期に軍事支出のため紙幣が濫発されると、紙幣の流通促進策として銅銭の使用は禁止された。



(写真は実物 × 約 60%)

金の銀錠

金政府は、銀を用いて「承安宝貨」を铸造・発行するが、短期間で铸造を停止した。一方、銅銭不足や不安定な紙幣流通の中で、民間では一定の重量に铸造した銀錠が貨幣として広く使用されるようになり、銅銭に代わる貨幣として主要な地位を占めるようになった。

12世紀から13世紀にかけて、中国東北部から内モンゴル、黄河流域一帯の華北にわたる広大な地域を領有した「金」における貨幣流通は、建国当初は銅銭主体であったが、南宋等との対外戦争による政治・経済状況の変化の中で、銅銭と紙幣の併用、さらには紙幣と銀との併用へと変遷していった。

「金」(1115～1234年)は、「遼(契丹)」(916～1125年)の支配下にあったツングース系女真族が自立、建国した王朝で、1125年に遼、1127年に「北宋」(960～1127年)を滅ぼした。金は、建国から10年余りで中国東北部から内モンゴル、華北にわたる広大な地域を領有するに至り、江南に逃れた「南宋」(1127～1279年)と中国を二分した。

金の貨幣流通は、建国当初は銅銭主体であったが、南宋との抗争、モンゴルの侵入等政治・経済状況の変化の中で、銅銭・紙幣の併用、さらに紙幣・銀の併用へと変遷する。

建国当初は、領有した遼と北宋の地域で豊富に流通していた北宋銭や、開元通宝等の旧銭を確保することができたため、独自に銅銭を発行する必要はなかった。その後、建国から約40年を経た1158年、四代海陵王(1149～1161年)は、交易などによる銅銭の国外流出を背景に、金独自の銅銭「正隆通宝」を铸造・発行した。海陵王は、1161年に、中国統一を狙い大軍を率いて南征するが失敗に終わり、軍事費の膨張で深刻な財政難を招いた。

次の五代世宗(1161～1189年)は、財政難と支払いに充てる銭貨不足に対処すべく、銅銭「大定通宝」の铸造を本格化させた。しかし、金の領内での産銅不足と铸造コストの増大から、世宗期の末には、銅銭の铸造は停止され、銭貨不足対策は行き詰まる。当時、銅銭14万貫(1貫＝1000文)を铸造するために、80万貫の費用を要したとされる。

このため、六代章宗(1189～1208年)時代の1189年、手形「交鈔」を財政支出に利用するようになる。交鈔は、元々客商(地域間の交易に従事した商人)が遠隔地に向かう際に銅銭で交鈔を買い、重量の嵩む銅銭の携行を回避するために利用され、手数料とともに引換機関に持ち込まれると銅銭に引き換えられた。また、7年の流通期限(界)が定められ、期限が到来すると回収されるか、次界の交鈔と引き換えられていた。金政府は、交鈔を財政支出に投入するに際し、流通期限を廃止し、租税支払い等への使用も認め、兌換紙幣として流通させた。その後、タタール等の遊牧民族との交戦(1195～1196年)、南宋との交戦(1206～1208年)に伴う軍事支出の増大の中で、銭貨不足対策として民間が備蓄する銅銭を吐き出させる限銭法を実施するが効果は乏しく、増発された交鈔は政府保有の銅銭で兌換できるレベルを超え、交鈔の価値下落と流通の停滞を招いた。そこで金政府は、徴税を通じて交鈔を回収し、価値の維持を図るようになり、交鈔は不換紙幣化して発行・流通量は拡大していった。

また、章宗時代には、対外交易や南宋との和議に基づく歳幣(毎年貢物)として獲得した銀を用い、「承安宝貨」という銀貨を铸造する。銅銭の代わりに銀による交鈔の兌換を狙ったが、銅・錫を混ぜた粗悪品が出回り、铸造は短期間で停止された。銀貨铸造の背景として、市場では銅銭不足や不安定な紙幣流通の中、銀の使用が拡大していたと考えられている。

金末期の1211年、モンゴルの侵入が始まると、財政窮乏化は深刻の度を増し、交鈔のほかに何種類もの紙幣が濫発され、紙幣価値は暴落した。紙幣の流通促進策として銅銭の使用を禁止するが、銅材・銅器等への銅銭の鑄潰しの動きを助長し、銅銭の絶対量をさらに減少させた。こうした紙幣価値の暴落、銅銭の絶対量の減少は、銀の貨幣的使用を昂進させていく。金末のこうした貨幣流通状況は、その後、金、南宋を滅ぼし、中国を支配するモンゴル(元朝)の貨幣政策に大きく影響を与える。

[山岡直人、日本銀行金融研究所貨幣博物館]

[参考文献]

加藤 繁、『唐宋代に於ける金銀の研究』分冊第2、東洋文庫、1926年

高橋弘臣、『元朝貨幣政策成立過程の研究』、東洋書院、2000年

宮澤知之、『中国銅銭の世界—銭貨から経済史へ—』、思文閣出版、2007年